

社会学 2 の概要と視聴覚教材の活用

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

本授業の目的は、小・中・高の社会科関連科目の授業を構成するために必要な社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、現代社会の在り方が、近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化によって形成されてきたことを理解すること、そして社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学 2 は、2 回生以上を対象とする社会学 1 を履修したのちに履修する。社会学 2 の合格者は、4 回生以上を対象とする社会学 3 の履修ができる。

2022 年度の本授業は、対面実施を基本にしつつ、コロナ感染確定者数が増加したタイミングで、非同期遠隔型の授業を 2 回実施した。全回数、紙で配布するレジュメと、解説音声付きのパワーポイントのデータを Moodle に掲示したので、対面授業に欠席した学生も都合に合わせて受講できる体制を整えた。理解度を確認するため、随時、感想コメントを課した。

履修者数は 10 名であった。内訳は中等社会 3 名、小学校サブコース 7 名である。

成績評価は対面授業での出席、Moodle へのアクセス状況、課題の提出状況と評価をチェックしたうえで、期末試験の結果に重点を置いて行った。期末試験は資料とキーワードの復習により、完全回答できる内容であった。成績は秀 20%、優 10%、良 50%、可 10%、不可 10%で分布していた。

2. 授業評価・授業研究の内容

とくに視聴覚教材を提示した第 11 回の授業について、自由記述方法で授業評価を書くよう学生に指示した。授業評価の一部分を以下紹介する。

○朝鮮のことについての知識が自分には全然ないということだ。朝鮮学校の制服や居住地区の様子、日本人学校とどのような関わりがあったか、どのようなコミュニティがあるか等々。映画を見る中で初めて知る知識・文化というものが多くあった。特に朝鮮ではチマチョゴリが伝統的な服装であるということは理解していたが、朝鮮人学校の制服に取り入れられていたということは初めて知った。日本と同じような制服であると勝手に思い込んでしまっていた。

○映画では 1960 年代の京都を舞台に描かれていたが、鴨川を境に南北に日本人と在日朝鮮人が分け隔たれているという一目で差別があったことが分かった。

○在日の人たちが、日本で生活していく、貧しさから抜け出すということは、偏見などもあり難しいことであったのかと思った。

3. 「授業時間外学習の促進」について

レジュメ、Moodle のトピック欄に適時、参考文献や動画等の紹介を行った。特に動画については視聴したという反応が多かった。

4. 総括

授業の主題をより具体的に理解し、現代社会で生じている社会問題に関する学生の問題意識を触発するため、動画等視聴覚教材を豊富化していきたい。

2022年度社会学2成績分布状況

